

平成30年度 鳥取県子ども家庭育み協会青年部研修会実施レポート

- 1、日 時 平成30年10月29日（月） 14：30～17：30
- 2、会 場 鳥取県倉吉市山根 529-2 倉吉体育文化会館 小研修室 2
- 3、主 催 鳥取県子ども家庭育み協会青年部
- 4、内 容 テーマ「遊びの中のアート」

～子どもの主体的な関りからの表現～

講 師 社会福祉法人緑翠会 緑川保育園園長 嵯峨淳心 氏

講 義：14：30～16：30 子どもの主体的な関りからの表現

意見交換：16：30～17：30 遊びきる子どもをめざして

本研修会は、講師を社会福祉法人緑翠会 緑川保育園嵯峨淳心園長に「遊びの中のアート」をテーマで講義していただきました。講師の嵯峨園長は子ども美術文化研究会で子どもの遊びと絵について研究活動を行っており、園児の絵や造形活動の写真を美術館やギャラリーに展示しています。研究活動をもとに子どもの生き生きとした姿から表現する作品のすばらしさ、また五感を感じ遊びの中で創り出すことがアートであることの大切さを実際の作品を映像でみながら講義されました。子ども達の命輝く生活の場として①受容的で応答的な大人の関りを通して家庭的な雰囲気の中、安心して生活することで、自己肯定感を育み愛着が形成される②安心して主体的に環境や他者と関わる遊びや生活を通して意欲を高め満足感や達成感を味わう③友だちと群れて遊んだり、役割分担をして自分たちの生活を創り出していく体験を積み重ねていくことで仲間と共に育つ④子ども自身が幸福で、思う存分に遊びこみ心も体も生き生きと生活できる場所となる。そして、子ども達が豊かに遊んだ痕跡は、素晴らしい造形作品となる。

自然に抱かれる情感体験で、「知ることは感じることの半分も重要ではない」自然の中にある色、形、音、匂いを五感で感じとる力が大切である。自然を通じて創造性を育むためには、素材に働きかけモノを創り出す創造力と人に働きかけ社会を創り出す社会性を自然に抱かれながら自然素材と遊ぶことで育まれていく。子どもの文化は美術文化であり、感じることと表すことを絶えず繰り返すことで、体を動かし心を働かせ、体と心が丸ごと育ち感情が豊かに育つ。保育はアートであり、とにかくやってみてその先に何かがあるので、お互い分からないもの同士で深めていく事も面白いのではないのでしょうか。

